

「四季・植物」 7 小豆

学名 *Vigna angularis* Ohwi et Ohashi
マメ科の一年草
名前の由来については様々な説があり、はっきりしない。

郷土資料から見た^{あずき}小豆のあれこれ

柏崎では小正月の1月15日「朝、囲炉裏で若木や豆殻を燃やして小豆粥をつくり、神棚や仏壇に供えて食べ」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）た。正月の十五日に食べるためこの日の小豆粥を「十五日粥」ともいい、地域によっては十五日に残しておいた小豆粥を十八日の朝に食べる「十八日粥」という行事もある。

昔から小豆は、その赤い色から魔除けの効果があるとされており、小豆をいれて煮た粥「小豆粥」は普通の粥と違い赤く染まっているので、呪力があるとされ、またハレの日の食べ物として年中行事の際につくられた。

小豆は「根からこいで一把づつわらでまるけ」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）根を叩いて、土を落とした後ムシロの上で乾燥させる。この収穫方法を柏崎では「マメヒキ」と呼ぶ。

小豆粥は、1月15日に果物の豊作を祈願する行事「成木責め」にも使われた。「成木責め」は「なるか、ならんか」といった文句を唱えながら鉈で木に傷をつけ、「なります、なります」といった文句を言ったあと、その傷に小豆粥を「食べさせる」ものである。柏崎では「柿の木責め」といって柿の木だけを責める地域もある。

参考資料

「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「植物の世界」	朝日出版社発行	1997
「図説 樹と花の大辞典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「いきいき健康 食品と料理」	ポプラ社発行	1989
「日本大百科全書」	小学館発行	1994			